

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

平成18年暮れに母体法人が変更し、玉野市の宇野駅に近い地域にあるグループホームが引き続き運営されている。職員の一部と利用者もそのまま継続している。新しい法人は全国的にグループホームと有料老人ホームを主として運営する会社で、グループホームを106ホーム運営している。関西エリア(関西・四国・九州と岡山1ヶ所)を統括する会社が母体である。従って、運営する体制、運営システム、ケアシステム等の基本はマニュアル化され、システム化されているが、ホーム長は「岡山でしか出来ない特徴も出したい」と言っていた。グループホームのケアは、人が人をケアする、しかも理念は「その人らしい生活が出来る支援」であるので、ホーム長の言う“岡山らしさ”は当然生み出せる筈である。

ホーム長は、平成20年2月に就任した。病院で看護助手をしていたそうで、このホームで2年目に入った。10月ごろ退職者が多数出たが、今年に入って補充も出来、今は安定しているようだ。ホーム長とケアマネージャー(有資格者)1名と事務職の3名が管理部門として専任しており、2ユニットで13名の介護職がケアに当たっている。そのうち3名は調理担当の専任で、介護職は利用者に対するケアに専念出来るようにしている。介護職は早出・日勤・遅出・夜勤のローテーションを組み、9時から16時までの間は1対3の人員配置を確保している。ユニットにはリーダーが日常の利用者のケアに当たっている。大きな方針として、「利用者のケアが第一で、業務より利用者への直接的なケアを優先するように、寄り添い、声かけ、プライバシーの保護に気をつけ、笑顔で楽しい生活支援に当たるよう」と職員に指示しているようだ。各ユニットの生活は、単独で返す時と、2つのユニットの利用者が一緒になって、生け花等のカルチャー体験や行事での交流もしている。このような生活行動やケアについては、リーダーのアイデアや手腕にかかっており、このホームらしい特徴を作る源にもなるだろう。

利用者楽しく元気で生活して貰う為には、職員が明るく仲良く働いている雰囲気が一番大切で、利用者に対する鏡でなければならない。会社から示されている理念、ホームの皆で申し合わせしている方針、目標もこの雰囲気作りと職員の態度を申し合わせ、日々利用者に接している。これらの姿、及び、利用者が自分達の気持ちや希望をしっかりと発言し、職員と明るく介護している様子を見て、ホームのして行こうとする姿を確認する事が出来た。

特に改善の余地があると思われる点

地域密着型サービス評価(自己評価と外部評価)を活用して、ホームの業務と一体化し、ケア及びサービス提供に生かして貰いたい。介護計画は利用者が今後生きていく為の道標となり、日々の記録は利用者の生活の足跡を示し、職員の支援してきた証となるものであり、この地域密着サービス評価はホーム業務の重要なカンファレンスとなり、アセスメントの基本となるようになれば私達としても遣り甲斐がある。一緒に協働してやっていきたいと思っている。

事業所名

愛の家グループホーム タートル

日付

平成 21年 3月 31日

特定非営利活動法人

評価機関名

ライフサポート

評価調査員

在宅介護経験15年

評価調査員

介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

2. 評価結果（詳細）

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：理念は全社で全体に適用する物を定めており、それに対しグループホームの現場では今月の目標を定め、小さい事から確実にケアに結び付けていけるよう努力しているので、改善は必要ない。</p> <p>2、全体的に見て…：全国的にグループホームを運営している母体法人は共通の理念として「その人らしい快適で穏やかな生活の支援、心を込めたサービス、地域の人々との触れ合い」を掲げている。その理念をベースに西日本の拘りの目標として“ありがとう”という感謝の言葉を真心込めて毎日言い続ける事を傘下のグループホームに提起している。それを受けて、このグループホームは「笑顔でいよう」を今月の目標として、毎日職員で唱和し、日頃のケアの中で生かしていくようにしている。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：建物と設備に関する改善項目はないが、職員間で申し合わせている事に、遠くから大きな声を掛けず、トーンを低くして話そうと心掛けている。つつい大きな声になる事があるので、皆で注意しようとしている。</p> <p>2、全体的に見て…：外から見ると、大きな倉庫かなあと思わせる建物であるが、中に入ると木をふんだんに使い、屋根から採光も取り入れ、暖か味溢れる雰囲気である。2つのユニットは玄関を入ると2方向に別れているが、その中央に職員の詰所がある。前の通路でも、この詰所を通っても両方のユニットに行き来が出来、利用者も交流している。利用者は職員詰所に座って職員の動きを監視(?)するユーモアな利用者もいる。皆自分の思う様に行動している。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	評価 不能	
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援	評価 不能	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：ケアマネジメント全般に亘ってあまり改善するところはない。介護計画や記録類、その他のケアシステム等も、全般的に共通の方式が決まっており、マニュアルもあるので、グループホーム単独で変更は出来ないし、毎日の報告事項も決まっている。まだ2年経過の段階なので、しばらくはそのシステムを使いこなす事も必要だろう。</p> <p>2、全体的に見て…：ケアをするのは人間。利用者を一人の人間として心の通い合える関係を作る事はどんなシステムでも出来ない。このグループホームに入所した時から、よく食べるようになった。車椅子の人が歩けるようになった。無表情の人が笑うようになった。よく喋るようになった。このようにホームで皆と仲良く生活し、職員の心暖まるケアを受けて、見事人間味を回復する事は、職員のチームワーク、そして人としての職員の資質のお陰である。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：職員の質の向上や資格の取得は、このホームに来てからでも頑張りたいと、研修を継続して受けたり、皆で勉強し合う事を積極的に進めていく。又地域の方々との交流を積極的に進める為に行事を計画したり、地域の行事にも参加していきたいと考えている。</p> <p>2、全体的に見て…：この地域から利用者は多く来ているし、家族もよく来る人が多い。又何か行事でもあれば、協力してくれる家族も多い。野菜や食べる物を持って来たり、畑に植える苗や種も持って来てくれる。家族は「何時来ても明るい雰囲気でも嬉しかった」と喜んでた。ホームは地域の自治会にも加入し、地域の一員として親睦を深めていきたいと考えている。今年はホームの夏祭り開催を検討中だと聞いた。大勢の地域の人や家族が集まってくると、楽しみの一つになるだろう。</p>		